

Denka

デンカ株式会社

2026 年 3 月期 第 3 四半期決算説明会

2026 年 2 月 6 日

イベント概要

[イベント名]	2026 年 3 月期 第 3 四半期決算説明会
[決算期]	2026 年度 第 3 四半期
[日程]	2026 年 2 月 6 日
[開催場所]	インターネット配信
[登壇者]	取締役専務執行役員 財務戦略担当(CFO) 林田 りみる（以下、林田）

DPE（米国クロロプレンゴム製造子会社）における暫定停止 ①暫定停止後の最新状況		Denka
<ul style="list-style-type: none">■ 製造設備を安全な状態で休止させるための作業を継続中■ 休止作業の進捗に伴い、人員の適正化が進捗■ 各ステークホルダーとの協議は継続中		
※ DPE（Denka Performance Elastomer LLC：米国クロロプレンゴム製造子会社）		
設備の状況	DPEは、製造設備を安全な状態で休止させるため、原材料や中間品などの物質の抜き出し、および処分作業を継続中。 2Q：安全性評価で優先度が高いと判断した物質の抜き出しが完了。 3Q：残りの物質についても抜き出しや設備内の洗浄などが順調に進捗。	
従業員数	休止作業の進捗に伴い、人員の適正化を進めている。 （従業員数 2025年3月末時点：約250名→2025年12月末時点：約140名→2026年4月見通し：約100名）	
ステークホルダー	DPEは、今後の費用負担を最小化すべく、各ステークホルダーとの協議を継続中。	

Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved. 2

林田：林田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日はデンカ株式会社、2025 年度第 3 四半期決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

まず初めに、クロロプレンゴムの米国製造子会社である DPE の、暫定停止後の最新状況につきましてご説明申し上げますので、2 ページをご覧ください。

DPE の製造設備については、安全な状態で休止させるため、原材料や中間品などの物質の抜き出し、および処分作業を引き続き実施中でございます。進捗状況としては、セカンドクォーターにおいては、安全性評価で優先度が高いと判断した物質の抜き出しを完了いたしました。サードクォーターにおいては、残りの物質についても抜き出しを行い、設備内の洗浄なども順調に進捗いたしました。

また従業員数は、2025 年 3 月末時点の約 250 名から徐々に減少し、12 月末時点で約 140 名にまで減少しています。足元では、休止作業の進捗に伴い、人員の適正化を進めておりますので、2026 年 4 月では約 100 名体制となる見通しでございます。

ステークホルダーとの協議につきましては、今後の費用負担を最小化すべく、現在も継続中でございます。

DPE（米国クロロプレナム製造子会社）における暫定停止 ②2025年度業績における影響						Denka
<p>■ 営業利益：抜本的対策効果は計画並みの3Q累計+42億円、通期+86億円の見通し（2024年度比）</p> <p>■ 特別損益：3Q累計は原材料・中間品の評価減に加え、原材料等の抜取作業に伴う労務費などの費用発生により△135億円、4Qも抜取・洗浄作業に伴う労務費などの費用が特別損失として発生することが見込まれるが、特別利益などで補填することを計画</p>						
						単位：億円
		1Q	2Q	3Q	4Q	通期
営業利益	抜本的対策効果	+9	+9	+25	+43	+86
特別損益	DPE関連損失	△21 (原材料・中間品の評価減等のみ)	△63 (原材料等の抜取作業に伴う労務費などの費用)	△51 (原材料等の抜取作業に伴う労務費などの費用)	4Qも抜取・洗浄作業に伴う労務費などの費用が特別損失として発生	
	大船工場用地売却益	+82	-	-	補填	
	政策保有株式売却益など	0	0	0	検討	

・上期中にDPE品在庫を概ね出荷完了の為、下期からメリットがフルに寄与

・4Qは、昨年4QにDPEの定期修繕影響などにより、収支がさらに悪化していた為、改善幅が大きいです

次に 25 年度業績における影響をご説明いたしますので、3 ページをお願いいたします。

営業利益における抜本的対策の効果は、サードクォーター累計でプラス 42 億円となりました。通期では、計画並みのプラス 86 億円を見込んでいます。

上期中に DPE 品の出荷がおおむね完了しましたので、サードクォーターからメリットがフルに寄与しています。フォースクォーターは、昨年に定期修繕の影響などにより収支が悪化しておりましたので、改善幅が大きくなります。

一方で、特別損益における影響は、ファーストクォーターに計上した原材料・中間品の評価減に加えて、セカンドクォーターとサードクォーターでは、原材料等の抜き取り作業に伴う労務費などの費用が発生し、サードクォーター累計でマイナス 135 億円を計上いたしました。なおフォースクォーターでも、特別損失が発生することを見込んでおります。

これに対し、大船工場の用地売却益をファーストクォーターに計上したことに加えて、今後は政策保有株式の売却などで補填することを計画しております。

2025年度3Q
決算概要
(P5-P13)

■ 営業利益：182億円 前年比＋64億円

電子・先端プロダクツ数量差＋47：半導体（生成AI関連）と電力インフラ向け需要拡大、半導体（汎用）向け需要の緩やかな回復
DPE操業停止影響＋42

■ 純利益：55億円 前年比＋30億円

DPE関連損失 2024年度3Q累計なし→2025年度3Q累計△135(設備内の原材料等の評価減、原材料等の抜取作業費用など)
大船工場用地売却益 2024年度3Q累計なし→2025年度3Q累計＋82

2025年度
業績予想
(P14-P17)

■ 営業利益：250億円（11月予想から据え置き）

■ 純利益：150億円（11月予想から据え置き）

営業利益：セグメント毎に強弱あるも、全体として11月予想並

クロロプレンゴム事業の抜本的対策による改善効果＋86億円などによりV字回復

純利益：クロロプレンゴム事業の抜本的対策の進捗に合わせ、相応の特別損失計上を見込むものの、
大船工場用地売却益のほか、政策保有株式売却益等の特別利益で補填

株主還元
(P18)

■ 配当予想：100円/株から変更なし（総還元性向57%）

■ 今後の配当方針：総還元性向50%（経営計画8年間累計）を目安にしたうえで、
1株当たり配当額の維持、増加を目指す

Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved. 4

4 ページをご覧ください。本日の説明会のポイントを説明いたします。

2025 年度第 3 四半期決算は、生成 AI 関連や電力インフラ向けの需要拡大と、汎用半導体需要の緩やかな回復により、電子・先端プロダクツの数量差が 47 億円のプラスとなったほか、DPE 操業停止影響 42 億円が寄与しまして、全体では前年比プラス 64 億円の大幅増益となりました。

純利益は、先ほどのページでご説明しました通り、DPE 関連損失を 135 億円計上する一方で、大船工場用地の売却益を 82 億円計上したことにより、前年比プラス 30 億円となりました。

通期の業績予想は、セグメントごとに強弱がございますので、営業利益の内訳は変更いたしました
が、全体としては 11 月予想から据え置いております。

配当予想につきましても、1 株当たり 100 円からの変更はございません。経営計画「Mission 2030」における 8 年間累計の総還元性向 50%を目安とした上で、1 株当たりの配当額の維持、増加を目指してまいります。

■ 営業利益・経常利益・純利益いずれも大幅増益

	2024年度 3Q累計 (4-12月)	2025年度 3Q累計 (4-12月)	(前年比)
売上高	3,016	2,908	△108
営業利益	118	182	+ 64
営業利益率	3.9%	6.3%	+ 2.3%
経常利益	43	137	+ 94
純利益	26	55	+ 30
為替レート (円 / \$)	152.3	148.5	
国産ナフサ (円 / K リットル)	76,200	65,100	

単位：億円

【営業外損益 前年比 + 30】
 為替損益 + 12
 固定資産処分損 + 6

【特別損益 前年比 △ 50】
 DPE関連損失 △135
 大船工場用地売却益 + 82

Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved. 6

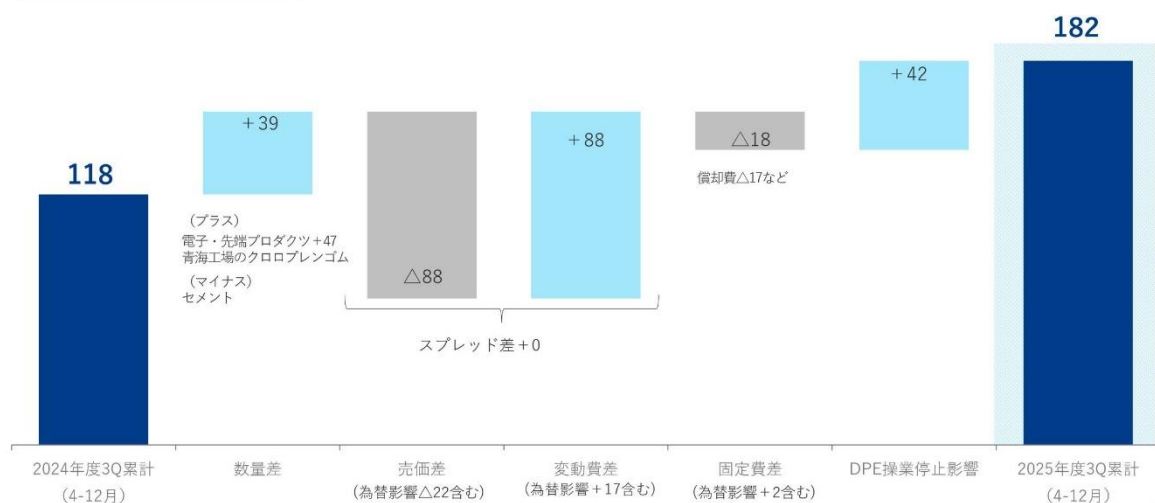
2025 年度第 3 四半期決算の説明に入りますので、6 ページをご覧ください。

売上高は 2,908 億円と、前年比減収となりました。営業利益は 182 億円、経常利益は 137 億円、純利益は 55 億円と、それぞれ大幅な増益となりました。

■ 半導体（生成AI関連）と電力インフラ向け需要拡大などによる数量差プラス、DPE操業停止影響により大幅増益

営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円



Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved. 7

7 ページをご覧ください。営業利益の増減要因をご説明申し上げます。

数量差は、電子・先端プロダクツと青海工場のクロロプレンゴムの販売増加などにより、プラス 39 億円となりました。売価差と変動費差をネットしたスプレッド差は、おおむね前年並みとなりました。また固定費差は、償却費の増加などにより、マイナス 18 億円。DPE 操業停止影響は、プラス 42 億円となりました。

2025年度3Q 決算概要 ③ セグメント別増減（前年比）

Denka

■ 電子・先端プロダクツ、エラストマー・インフラソリューションが大幅増益

売上高	2024年度 3Q累計 (4-12月)	2025年度 3Q累計 (4-12月)	増減	数量差	売価差	DPE 操業停止影響	単位：億円
電子・先端プロダクツ	675	759	+ 84	+ 85	△2		
ライフイノベーション	351	349	△1	△6	+ 4		
エラストマー・インフラソリューション	845	728	△117	△64	+ 18	△70	
ポリマーソリューション	1,024	933	△91	+ 17	△108		
その他/消去差	121	139	+ 17	+ 17	-		
合計	3,016	2,908	△108	+ 49	△88	△70	

営業利益	2024年度 3Q累計 (4-12月)	2025年度 3Q累計 (4-12月)	増減	数量差	売価差	コスト差等	DPE 操業停止影響
電子・先端プロダクツ	69	97	+ 28	+ 47	△2	△17	
ライフイノベーション	76	66	△10	△1	+ 4	△13	
エラストマー・インフラソリューション	△57	△23	+ 34	△9	+ 18	△18	+ 42
ポリマーソリューション	11	20	+ 9	△1	△108	+ 118	
その他/消去差	19	22	+ 3	+ 3	-	△0	
合計	118	182	+ 64	+ 39	△88	+ 70	+ 42

Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved.

8

Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved. 8

8 ページをご覧ください。こちらはセグメント別の売上高、営業利益の差異分析です。

電子・先端プロダクツ、エラストマー・インフラソリューションが大幅な増益となりました。

■ エラストマー・インフラソリューションが大幅増益

単位：億円

売上高	2023年度				2024年度				2025年度		3Q	2Q比 (増減)
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q		
電子・先端プロダクツ	192	225	217	245	219	232	225	247	236	265	258	△7
ライフソリューション	72	150	158	90	78	146	127	82	66	148	135	△13
エラストマー・インフラソリューション	280	292	286	256	292	272	280	272	258	241	229	△12
ポリマーソリューション	298	317	309	319	326	349	349	330	338	316	278	△38
その他/消去差	37	51	45	54	38	40	44	56	43	56	40	△16
合計	878	1,035	1,015	964	952	1,038	1,025	987	941	1,026	941	△86

営業利益	2023年度				2024年度				2025年度		3Q	2Q比 (増減)
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q		
電子・先端プロダクツ	21	28	18	24	23	27	20	22	25	38	34	△4
ライフソリューション	9	57	31	20	17	40	19	20	2	36	28	△8
エラストマー・インフラソリューション	△7	△9	△39	△37	△2	△29	△26	△23	△14	△20	11	+31
ポリマーソリューション	△0	△2	6	△4	3	4	4	1	4	11	5	△6
その他/消去差	5	5	4	6	7	5	7	5	6	9	6	△3
合計	28	77	20	8	47	47	24	26	23	74	85	+10

Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved. 9

9 ページをご覧ください。各セグメントの四半期ごとの推移と、前四半期との比較を示しています。

サードクォーターはセカンドクォーターと比べ、エラストマー・インフラソリューションが増益となり、全体でも増益となりました。

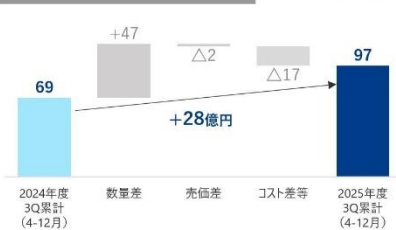
■ 半導体（生成AI関連）・電力インフラ向けの需要拡大と半導体（汎用）向けの緩やかな回復により増益

営業利益 差異分析(前年比)

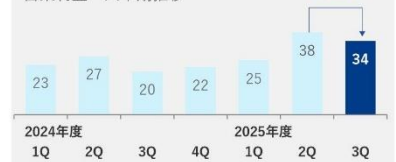
単位：億円

差異理由(前年比)

※ TIM (Thermal Interface Materials：放熱材料)



営業利益 四半期推移



3Q単体(2Q比)
・概ね2Q並み(出荷のタイミング等)
・半導体(生成AI関連)、電力インフラ向け需要拡大は継続

数量差	用途別	売価差	コスト差等
球状アルミナ	半導体・電子部品 TIM用途* 緩やかな需要回復が継続 放熱封止剤用途 AI向け好調が継続	欧州向け低調	前年並
球状シリカ	封止材用途 緩やかな需要回復が継続 樹脂基板用途 AI向け好調が継続	—	前年並
高機能フィルム	緩やかに回復	—	前年並
アセチレンブラック	—	欧州向け低調	電力インフラ向け 高圧ケーブル需要が堅調
窒化珪素(粉)	—	放熱基板向け・ベアリングボール向け EV市場は低調も、切替需要で前年並	前年並
セラミックス基板 (窒化珪素基板・窒化アルミ基板)	—	欧州向け低調	電鉄向け 引き続き堅調

↓
償却費増△13
在庫影響
(単価の高い期首在庫の影響)、他

Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved. 10

セグメント別に、差異分析の詳細について説明申し上げます。

10 ページは、電子・先端プロダクツについて説明いたします。

生成 AI 関連や電力インフラ向けの需要拡大に加えまして、汎用半導体向けの緩やかな回復により、数量差がプラス 47 億円となり、増益となりました。

用途別の販売動向としましては、生成 AI 関連では、放熱封止剤用途での球状アルミナ、樹脂基板用途で球状シリカなどの需要拡大が継続いたしました。また汎用半導体向け需要も、緩やかな回復が継続しております。

アセチレンブラックの、電力インフラ用途の高圧ケーブル向けも、引き続き需要は堅調に推移し、前年を上回りました。

一方で xEV 向けでは、欧米 EV 向けの需要低調により、球状アルミナ、アセチレンブラック、セラミックス基板の販売数量が減少いたしました。

セグメント全体のコスト差は、償却費の増加などにより、前年から悪化をいたしました。

なおスライド左下に、前四半期との比較を記載しております。サードクォーターは、おおむねセカンドクォーター並みとなりました。



11 ページは、ライフイノベーションについて説明いたします。

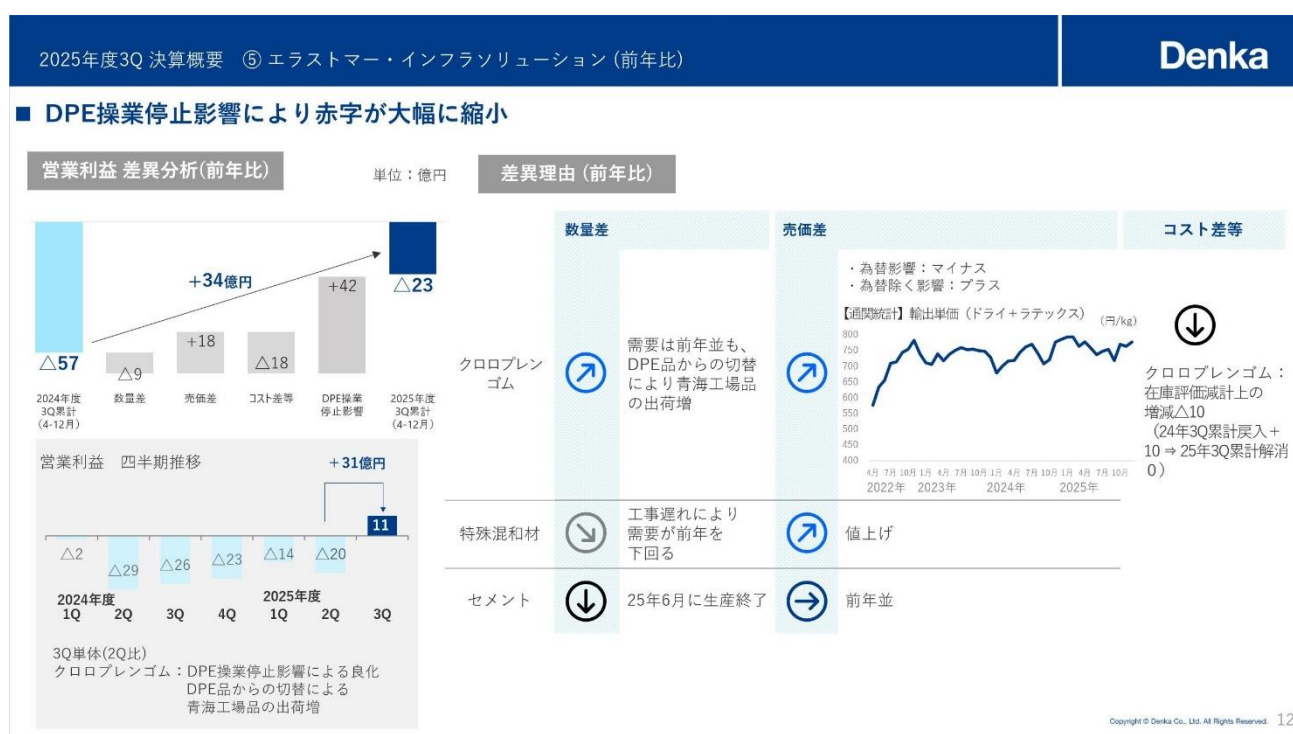
インフルエンザワクチンは、前年並みの出荷となりました。抗原検査キットは、新型コロナの検査キットが出荷減となった一方で、インフルエンザの早期流行により、インフルエンザ検査キット、

コンボキットが出荷増となり、全体では微増となりました。また、臨床試薬は、一部海外向けの不調を受けて販売が減少いたしました。構成差により、売価は前年比プラスとなりました。

コスト面では、新工場稼働に伴う償却開始により、固定費が増加いたしました。

以上により、セグメント全体では検査キット、臨床試薬の能力増強に伴う償却費の増加に対して、これを上回る販売増加がなく、減益となりました。

なおセカンドクォーター比では、インフルエンザワクチンを計画通り 9 月から早期出荷しましたので、減益となりました。



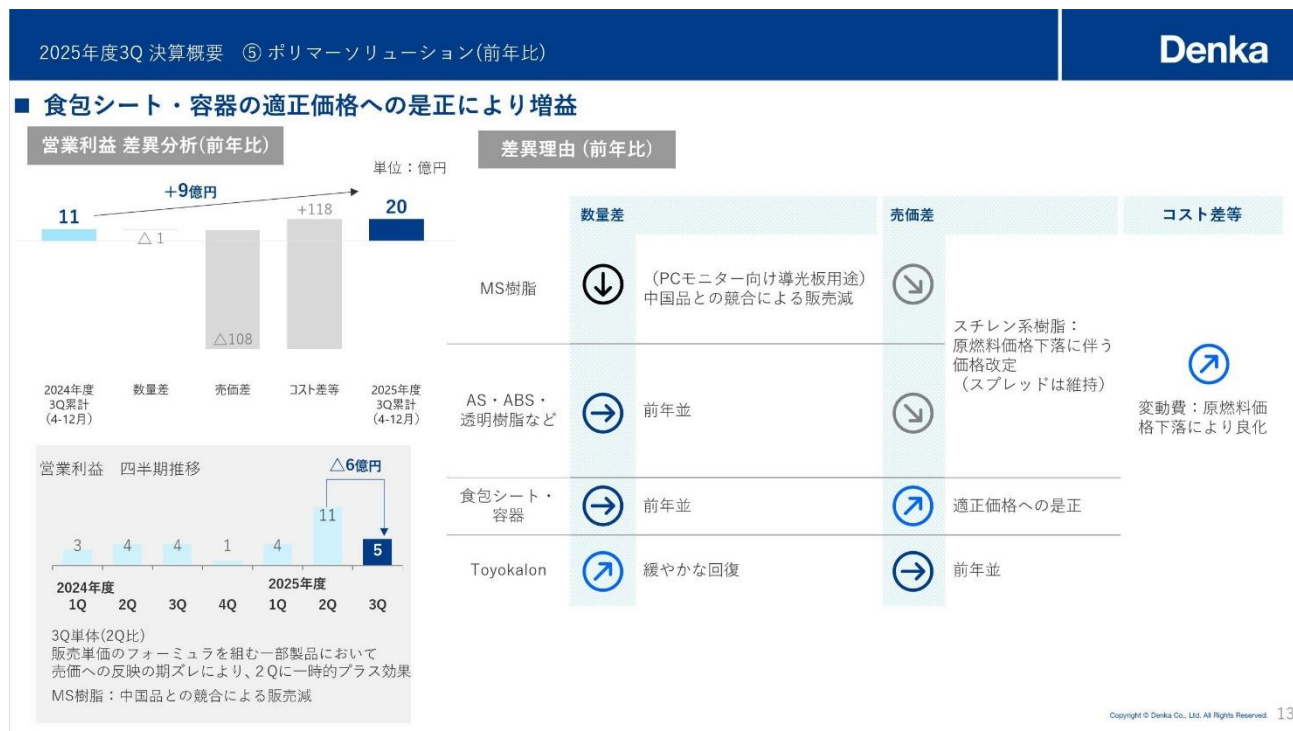
12 ページは、エラストマー・インフラソリューションについて説明いたします。

クロロブレンゴムの需要は前年並みとなりましたが、DPE 品からの切り替えにより、青海工場品の出荷が増加いたしました。一方、特殊混和材は、工事遅れにより需要が前年を下回り、販売減となりましたが、値上げにより売価は前年比プラスとなりました。セメントは計画通り、6 月に生産を終了しております。

コスト差では、前年はクロロブレンゴムの在庫評価減 10 億円の戻入処理を行ったことで、前年利益を押し上げておりましたので、前年比マイナスとなりました。

DPE 操業停止影響は、プラス 42 億円となり、セグメント全体への赤字幅が大幅に縮小しました。

なおセカンドクォーター比では、DPE 操業停止影響や、青海工場品の出荷が増加したことにより大幅な増益となり、四半期利益が黒字化いたしております。



13 ページは、ポリマーソリューションについて説明いたします。

ABS 樹脂の PC モニター向け導光板用途は、中国品との競合により、販売が減少いたしました。一方、Toyokalon は、需要の緩やかな回復により、販売数量が増加いたしました。また食包シート・容器は、適正価格への是正を行い、スプレッドが改善いたしました。

セカンドクォーターとの比較では、ABS 樹脂が中国品との競合により、販売が減少したことに加えて、セカンドクォーターに原料下落期の、一時的なプラス効果がありましたので、減益となっております。

2025年度 業績予想 ① 連結サマリー（前年比）

Denka

■ 11月予想から売上高のみ変更。営業利益は概ね想定並みに進捗。

単位：億円	3Q累計	4Q	2024年度 実績	3Q累計	4Q予想	2025年度 今回予想	前年比	11月 予想比
売上高	3,016	987	4,003	2,908	992	3,900	△103	△100
営業利益	118	26	144	182	68	250	+106	±0
営業利益率	3.9%	2.6%	3.6%	6.3%	6.3%	6.4%	+2.7%	+0.1%
経常利益	43	33	76	137	53	190	+114	±0
特別利益	3	0	4	85				
特別損失：DPE関連	-	△179	※ △179	△135				
特別損失：その他	△8	△63	△71	△4				
純利益	26	△149	△123	55	95	150	+273	±0
為替レート （円 / \$）	152.3	154.1	152.8	148.5	156.2	150.4		
国産ナフサ （円 / Kリットル）	76,200	73,800	75,700	65,100	64,200	65,000		

利益

損失

補填

※減損損失△161億円ほか

Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved.

15

業績予想について説明いたしますので、15 ページをご覧ください。

こちらに記載の通り、2025 年度の業績予想は、売上高のみ見直しております。営業利益は、11 月予想からセグメントによって進捗状況が異なっているため、内訳のみ変更しております。

2025年度業績予想 ② 業績予想の進捗状況

Denka

■ 営業利益のセグメント別内訳は修正。全体では概ね想定並みに進捗

営業利益	3Q累計 (4-12月)	4Q 予想	通期 予想	11月 予想比	進捗状況
電子・先端プロダクツ	97	33	130	+5	半導体（生成AI関連）・電力インフラ向けの需要拡大が継続、半導体（汎用）向けも緩やかな回復により、想定をやや上回る
ライフソリューション	66	4	70	△5	抗原迅速診断キット：足元では感染症の流行が落ち着いており、想定より弱い
エラストマー・インフラソリューション	△23	23	0	△5	クロロブレンゴム：需要回復が想定より弱い
ポリマーソリューション	20	10	30	+5	コスト減少により想定を上回る
その他/消去差	22	△1	20	±0	
合計	182	68	250	±0	

単位：億円

Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved. 16

16 ページで、セグメントごとの進捗状況をご説明申し上げます。

電子・先端プロダクツでは、生成 AI 関連や電力インフラ向けの需要拡大が継続し、想定をやや上回る見通しです。一方、ライフイノベーションについては、抗原診断キットでは、感染症の流行が落ち着いており、フォースクォーターの需要が想定より弱いと見ております。エラストマー・インフラソリューションも、足元のクロロプレンゴムの需要が弱く、想定を下回る見通しです。ポリマーソリューションでは、コスト減少などによりまして、想定を上回る見通しでございます。

以上の通り、セグメントごとに強弱がございますが、全体としてはおおむね想定並みの進捗となっておりますので、営業利益の予想を 11 月予想から全体で据え置いております。

2025年度 業績予想 ③ セグメント別投資・償却費・研究費

Denka

■ 設備投資・投融資額予想を見直し

単位：億円

	設備投資・投融資額				減価償却費				研究開発費			
	3Q累計（前年比）		通期（11月予想比）		3Q累計（前年比）		通期（11月予想比）		3Q累計（前年比）		通期（11月予想比）	
	2024年度	2025年度	2025年度		2024年度	2025年度	2025年度		2024年度	2025年度	2025年度	
	実績	実績	11月 予想	今回 予想	実績	実績	11月 予想	今回 予想	実績	実績	11月 予想	今回 予想
電子・先端プロダクツ	208	259	400	※1 370	70	83	112		42	43	60	
ライフイノベーション	84	14	30	30	24	32	40		35	35	50	
エラストマー・インフラソリューション	91	85	110	110	69	※2 62	84	変更なし	19	18	25	変更なし
ポリマーソリューション	43	37	60	60	39	38	50		18	15	20	
その他/消去差	-	-	-	-	3	3	4		-	-	-	
合計	426	395	600	570	205	217	290		114	111	155	

※1 アセチレンブラックのタイでの新規製造拠点設立投資における検収タイミングのズレ

※2 DPEの償却費減を含む

Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved.

17

17 ページでは、セグメント別の投資・償却費・研究費についてお示ししています。

2025 年度の減価償却費と研究開発費は、11 月予想からの変更はありません。設備投資は、一部投資の進捗状況を加味いたしまして、11 月予想の 600 億円から、570 億円に減額変更しています。

■ キャッシュフローの改善を見込み、前年同額の100円/株から変更なし

		2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 実績	2024年度 実績	2025年度 予想
当期純利益	(億円)	250	227	228	260	128	119	△123	150
1株当たり配当	(円/株)	120.0	125.0	125.0	145.0	100.0	100.0	100.0 (中間50.0 期末50.0)	100.0 (中間50.0 期末50.0)
配当額	(億円)	105	108	108	125	86	86	86	86
配当性向		42%	48%	47%	48%	68%	72%	-	57%
自己株取得	(億円)	21	-	-	-	-	-	-	-
総還元額	(億円)	126	108	108	125	86	86	86	86
総還元性向		50%	48%	47%	48%	68%	72%	-	57%
減価償却額	(億円)	229	225	229	239	270	269	279	290
設備投資・投融資額	(億円)	328	369	423	356	394	437	692	570
有利子負債残高	(億円)	1,121	1,343	1,382	1,370	1,697	1,744	2,177	2,150
ネットDEレシオ		0.40 _倍	0.42 _倍	0.42 _倍	0.40 _倍	0.50 _倍	0.45 _倍	0.61 _倍	0.66 _倍
ROIC		7.8%	6.6%	6.8%	7.3%	6.7%	2.5%	2.5%	4.2%
ROE		10.3%	9.1%	8.8%	9.4%	4.4%	4.0%	△4.1%	5.1%

Copyright © Denka Co., Ltd. All Rights Reserved. 18

18 ページでは、株主還元・ROE についてご説明申し上げます。

2025 年度の配当予想は、前年同額の 100 円と、11 月予想からの変更はございません。

配当方針につきましても、8 年間累計の総還元性向 50%を目安とした上で、1 株当たりの配当額の維持、増加を目指す基本方針からの変更はございません。

以上で、私からの説明を終わります。ご清聴ありがとうございました。